



大野 鎮司 議員

子育て世代を応援、やさしいまちづくりを

問

①病児・病児後保育の今後の展望は。
 ②次世代認定マークの普及と取得の促進を。
 ③子育て支援と地域経済の活性化を目的とした次世代クーポンを発行してはどうか。

答 武智市長

①重要な課題と認識しており、医師会の協力を仰ぎながら、運営体制や施設の確保について調査研究をしていきたい。

また、病児・病児後保育の代替として、ファミリー・サポート・セン

ターの利用料の減額を検討したい。

②本市でも、常時雇用労働者101人以上の9社の企業が行動計画を届け出ており、認定に向け努力をしているが、まだ認定企業はない。

今後、働きながら安心して子育てができるように、仕事と子育ての両立支援のための制度の普及啓発及び取得の促進を図りたい。

現在のところ企業に対する市単独の優遇措置は、考えていない。

③次世代クーポンの発行は、子育て支援と地域経済の活性化を図るには有効な手段である。

しかし、仮に中学生までの子どもに、月額1万円を支給すると、約5億8500万円の自主財源が必要となり、市全体の財政上の問題もあり困難である。

身近な公園の整備

問

①災害時には、一次避難場所にもなる公園だが、身近に公園がない地域があるのが実態である。公園整備を図るべきでは。
 ②公園の遊具等の更新は、どのようなスケジュールで実施しているのか。

答

久保産業建設部長

①地域における身近な公園整備については、過去に整備に対する補助を行っていたが、申請件数の減少等により廃止した経緯がある。

今後は、地元区長への要望調査を実施し、補助制度について検討を進めたい。

②市が管理している都市公園等については、定期点検で不具合があれば、随時修繕・更新を行っているが、地域の身近な公園の遊具等の改修・修繕については、現在対応で

きる補助制度がないため、地元で対応していただくようお願いしている。

今後は、地元区長への要望調査を実施し、以前実施していた市民のふれあい広場整備事業等のような制度により、地元の活動を支援していきたい。

地域防災、鳥ノ木の避難経路

問

鳥ノ木団地の避難場所は、ウエルピア伊予となっている。迅速に避難するために、八反地川に人が通れるくらいの橋を架けたらどうか。

答 長尾総務部長

八反地川は天井川であるため、橋の取りつけが急勾配となり、技術的に課題も多く、多額の経費が見込まれる。

また、ウエルピア伊予側においても、安全管理上の理由により、周囲を

ネットフェンスで囲んでいるという実情から、現時点で直ちに取り組むには課題が多く、困難ではないかと考えている。

今議会に、避難所の安全点検に係る調査業務委託料を計上している。

この業務は、災害時の避難予定施設と周辺の安全点検を実施した上で、避難予定施設のデータベースを整備し、災害時の的確な避難誘導や自主防災組織による避難計画の策定を目的としている。鳥ノ木団地の避難所問題も、この中で検討したい。



鳥ノ木団地沿いを流れる八反地川